

第4学年 道徳科学習指導案

4年2組 22名

指導者 小川 雄大

1 主題名 働くよさ

C-(13) 勤労、公共の精神	働くことの大切さを知り、進んでみんなのために働くこと。
--------------------	-----------------------------

2 主題設定の理由

(1) ねらいや指導内容

今日、社会の急速な変化に伴い、働き方が多様になり、働くことに対する将来の展望がもちにくくなっている。しかしながら、人間生活を成立させる上で働くことは基本となるものであり、一人一人が働くことのよさや大切さを知ることにより、みんなのために働こうとする意欲をもち、社会や人々のために前向きに働くことができるようになる。しかし、4年生という発達段階においては、働くことの喜びを味わっている一方で、働くことを負担に感じたり、面倒に思ったりする様子も見られる。そこで、働くことのよさである「ほかの人の役に立つ」「やり遂げることの充実感」について深く考え、自分ができる仕事を見つけ、進んで他者のために働こうとする意欲を高めたいと思い、本主題を設定した。

(2) 児童の実態

本学級の児童は、係活動や当番活動など、自分に割り当てられた役割に対しては積極的に取り組むことができる。しかし、先生や友達といった、周りの誰かのために進んで働こうとしている姿が見られるのは限られた子ども達であり、自主的に働く友達に任せていたり、働くことを面倒に思っていたりする児童の姿が見られることもある。

今後は、委員会活動や宿泊学習での班活動などもあり、上級生としてみんなのために働く場面が一層増えていくことが予想される。そのため本時では、クラスのために働くことの大切さや働くことのよさに気付かせることで、進んで他者のために働こうとする意欲を高めたい。

(3) 教材について

(教材名「点字メニューにちょうせん」

出典：新編 新しいどうとく4 東京書籍)

主人公であるのり子は、目の不自由なお客さんとの出会いをきっかけに、点字メニューを作成しようとする。点字メニュー作りを続けるのり子様子から、働くことの大切さについて考えることができる内容となっている。

自力で点字メニュー作りを続けるのり子の気持ちに迫ることで、誰かの役に立とうとするものの大切さや喜びについて気付かせるとともに、やり遂げることの充実感についても考えさせることができる。働くことのよさについて、様々な視点から考えを深めることのできる教材である。

(4) 主体的に考え、伝え合い、共に伸びる授業の工夫

本時の導入では、働くということに対する多様な考え方を引き出すために、事前に回答しておいたアンケートを紹介する。アンケートの結果からめあてに繋げることで、子どもたちが主体的にめあてについて考えられるようにする。展開では、なぜ林さんに点字メニュー作りを任せなかったのかについて問いかけることで、目が不自由なお客さんのために頑張る気持ちだけでなく、任された仕事をやり遂げた充実感についても考えさせる。一から自分でしたのはどうしてか話し合わせることで、やり遂げることの充実感についても気付くことができるようにしたい。自分の思いを共有する際には適宜ペア学習を取り入れ、ねらいとする道徳的価値について多面的、多角的に話し合うことができるようにする。

また、本校で長年交通ボランティアをしてくださっている方のお話をまとめたスライドから、ボランティア活動に対する思いに触れることで、係活動等の当番活動だけでなく、誰かの役に立てることはないか考え、進んで他者のために働こうとする意欲を高められるようにする。

3 本時の学習

(1) ねらい

働くことのよさや大切さについて気付き、進んでみんなのために働こうとする意欲を高める。

(2) 展開

過程	学習活動	主な発問と予想される反応 ◎主発問	指導上の留意点 ☆評価の視点
導入	1 アンケート結果を踏まえて、本時のめあてをつかむ。	○アンケートの結果を見てみましょう。 ・学校や家で、いろいろと働いている人もいるんだな。 ・働くことって大変なことだと思っていたけど、同じように考えている友達もいるんだな。	○「学校や家で、働いているなど感じるのはどんな時か。」「働くという言葉にどんなイメージがあるか。」をアンケートをもとに確認することにより、本時のめあてを主体的にとらえることができるようにする。
		はたらくことのよさとは何だろう	
展開	2 教材について話し合う。 (1) 目の不自由なお客さんの役に立ったのりこの思いについて考える。 (2) 点字メニュー作りを続けるのりこの思いについて考える。	○小さかったのり子の声が大きくなったのは、のり子のどんな思いからですか。 ・目の不自由なお客さんが喜んでくれた。 ・自分のやっていることに自信がもてた。 ◎のり子は、どんな思いで点字作りを続けていたのでしょうか。 ・大変だけど、絶対に完成させたい。 ・家族の役に立ちたい。 ・手首は痛いけど、あのお客さんに喜んでもらいたい。	○声の大きさが対比的に書かれている場面に注目させ、誰かの役に立てたときの喜びに気付くことができるようにする。 ○「林さんに任せた方が早いし、よいメニューができるのではないか。」と問い返すことで、やり遂げることの充実感について考えることができるようにする。 ☆のりこの思いを考える中で、働くことの大切さに気付き、誰かの役に立つことのよさについて考えを深めている。 (ワークシート・発言)
	3 本時の学習を振り返り、働くことのよさとは何か考える。	○本時の学習をまとめましょう。 ・働くことで、誰かの役に立つこともあるし、自分自身にも達成感が生まれるんだな。	
終末	4 地域で交通ボランティアをしてくださっている方の思いを知る。	○みんながお世話になっている方にインタビューをしてきたことをまとめたので、見てみましょう。 ・毎日早く起きることが大変だと思ったことはないのかな。 ・自分も、誰かのために進んで働けるようになりたいな。	○地域で交通ボランティア活動をしてくださっている方の思いに触れることで、自分も誰かのために働きたいという意欲を高める。